

I 事業の概要（地域の実情含む）

（1）地域や学校の被災や復興の状況

当学区は、大船渡市の中心部に位置し海岸より離れているものの、東日本大震災では学区内東部を流れる盛川が津波により遡上し、多くの被害をもたらした。学区内の盛駅付近を中心に、商店街や工業地帯、住宅街が浸水し、全壊、半壊の被害が出た。

震災直後、本校の体育館や校舎が避難所となった。校庭に仮設住宅が建てられたりした。その後、仮設住宅が撤去され、平成28年11月に校庭が復旧するまで校庭が使用できず、6年間、運動会や陸上記録会の練習は、他校の校庭を借用して実施した。

（2）児童の実態

校庭に仮設住宅が建っていたこともあり、児童の運動能力や体力面での低下、精神面での不安定、落ち着きのない行動がみられる時期があった。また、自己肯定感も低くなっている。

そこで、地域の企業である三陸鉄道の学習を通して、三陸鉄道の被害と職員の仕事に対する姿勢や、復興にかける思いを学ぶと共に、自分たちを育ててくれている郷土への愛着とそこに暮らす方々とのつながりを感じさせたい。また、この学習を通して、自分たちの暮らしている盛町や大船渡に対する誇りをもたせていきたい。

II 取組の概要

（1）ねらい

- ・三陸鉄道に実際に乗り、鉄道の様子や海の様子を見ることで、地元の交通機関の良さを知り、海の美しさを実感させる。
- ・三陸鉄道の被害の様子や、地域の住民のために復興を願い、尽力した社員の思いや取り組みを知り、自分たちの考え方を振り返るとともに、故郷への誇りをもたせる。
- ・復興に向けての支援について学ぶことで、人とのつながりや優しさ等を学び、自分たちの行動を振り返るきっかけとする。

（2）各学年の学習

ア 三陸鉄道はすごい！（1・2年生）

（ア）月日 8月31日（金）

（イ）学習内容

三陸鉄道の被害と復興（盛駅～吉浜駅）
津波石・ど根性ポプラの見学

（ウ）学習の様子等

- ・40mの津波によって、三陸鉄道の車両が流されたことを聞いたり、「津波石」を実際に見たり触れたりすることで、津波の威力や恐ろしさを実感していた。
- ・三陸鉄道に乗って、広い海を見て、海の広さや美しさに、子どもたちは感動していた。津波の怖さだけでなく、自然の豊かさを感じることができた。
- ・2度の津波でも枯れることなく80年間生き続けている「ど根性ポプラ」を見学し、その大きさや強さに驚き、これからもずっと生き続けてほしいと願っていた。



イ 残ってよかった！三陸鉄道（3年生）

（ア）月日 9月7日（金）

（イ）学習内容

三陸鉄道の被害と復興（盛駅～恋し浜駅）
「恋し浜ほたて」の養殖の復興

（ウ）学習の様子等

- ・4両の内3両が流されたことや線路や駅舎が津波によって壊されたことを聞き、津波に対する怖さを感じ取っていた。
- ・被害の大きかった三陸鉄道が、クウェートからの原油や全国からの支援によって復旧したこと

を知り、支援してくださった方々への感謝の気持ちが大きくなった。

- ・「恋し浜ほたて」の漁師の佐々木さんから、大きな被害を受けながらも、「明日を信じて生きよう」という前向きな考えで頑張ってきたことを聞き、ほたて養殖が多く支援のもと復興できたことを、子どもたちも喜んでいました。



ウ 負けない！三陸鉄道（4年生）

（ア）月日 7月5日（木）

（イ）学習内容

三陸鉄道の被害と復興（盛駅～釜石駅）

新日鐵住金釜石製鉄所の地域支援



（ウ）学習の様子等

- ・硬いトンネルの中において、一両だけ津波の被害に遭わずに残った車両を「奇跡の車両」と感動していた。
- ・三陸鉄道の被害の大きさから、地域の人たちが廃線になることを心配したことや、地域の足として残してほしいという多くの声があったことを聞き、三陸鉄道の重要さを感じていた。
- ・復興のために国内外の多くの支援を得たことを

知り、子どもたちは感謝の気持ちをもった。

- ・釜石製鉄所が、仮設住宅を建てる場所を提供したり、お風呂を開放したりしたことを聞き、地域のために尽くしたことに感動し、自分たちも支援や感謝など、自分たちができることをすることの大切さを実感していた。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- （1）三陸鉄道に乗り、東日本大震災津波の被害の様子を学ぶことで、被害の大きさや津波の恐怖を感じるとともに、防災への意識を高めることができた。
- （2）三陸鉄道からの景色を眺めることで、津波の怖さだけでなく、自然の美しさやすばらしさを堪能することができた。
- （3）三陸鉄道が復旧・復興するきっかけが地域の人たちからの要望だったことや、復旧のために多くの支援を受けたことを聞き、地域とのつながりを感じ、郷土への誇りを感じることができた。
- （4）三陸鉄道の学習をするるとともに、地域の企業や産業等の学習をすることで、防災・復興の学習がさらに深まった。

2 課題

- （1）今後も、地域の企業等から、復興等について学ぶ学習を継続していきたい。
- （2）今年度計画した復興カリキュラムについて、内容の吟味をさらに行う必要がある。

